

朝の礼拝

聖書 マルコによる福音書 10章 17～22節 (新約聖書 81頁)

17 イエスが旅に出ようとされると、ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」 18 イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもいない。19 『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」 20 すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。21 イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」 22 その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。

天に富を積む

たくさんの財産を持っている人がいました。親から土地や財産を相続していたのでしょうか、あるいは本人の努力で積み上げてきた財産かも知れません。いずれにせよ人一倍努力をし、財産を守り増やしてきたのでしょうか。子孫や土地、財産が増えることは、神様の恵みであり祝福でした。

またこのお金持ちの人は「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え」という掟を子供の頃から守ってきた正しい人でした。彼は誰もが羨むほどの幸せな人生を送っていた人だと言えるでしょう。

しかし彼はイエスの下へ走り寄り、ひざまずくほど熱心に「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか」と尋ねています。永遠の命とは「神様と共にいる幸せ」です。なぜ彼は神様と共にいる幸せを実感できず、自分にはまだすべきことがあると不安に感じていたのでしょうか。

イエス様は彼に「あなたに欠けているものが一つある。行って持っているものを売り払い、貧しい人々に施しなさい。」と言われました。お金持ちの人にとって幸せとは何かを手に入れることだと思っていました。しかしイエス様は持っているものを手放すことが私と共にいる幸せだと言われたのです。

自分の努力の結果も財産も互いを思い、互いのために用いてこそ意味があるのではないのでしょうか。それは自分も他者も神様に委ねるということです。すべてを献げ、すべてを委ねる。もはや自分が生きているというよりも、自分も他者も共に神様に生かされているということです。自分と他者、そして神様が共にいることが永遠の命、私たちの幸せです。

しばらく黙祷しましょう。

祈禱 祈りましょう

私たちを愛し、励まされる主よ。

あなたはある金持ちに「天に宝を積み、わたしに従いなさい」と言われました。どうか今日一日も互いに励ましあい、すべてをあなたに委ね、あなたの祝福のうちに歩ませて下さい。

主イエス・キリストの御名によってお願い致します。アーメン